

日本

貿易統計 (2020年2月)

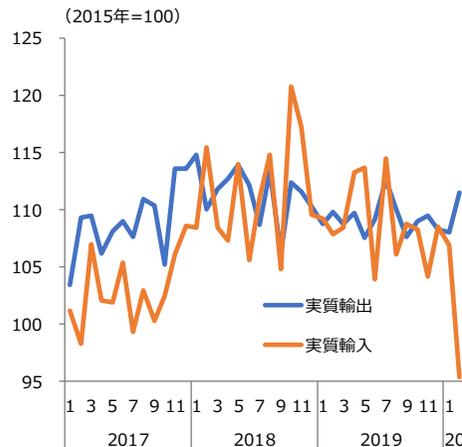
中国からの輸入が大幅減、輸出は今後減少の見込み

政策・経済研究センター

綿谷謙吾

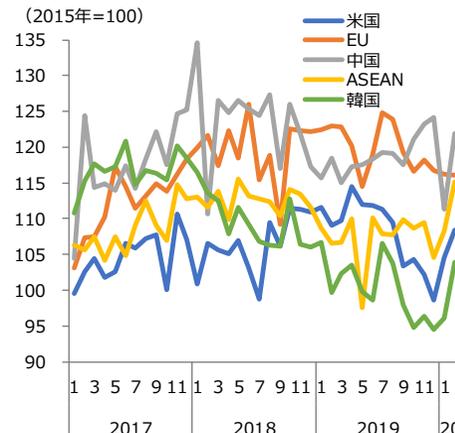
03-6858-2717

1 実質輸出入

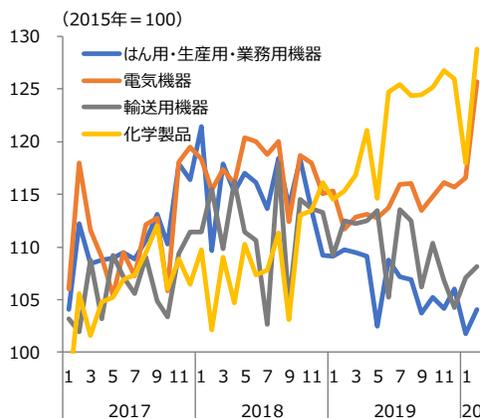


注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

2 実質輸出：国別

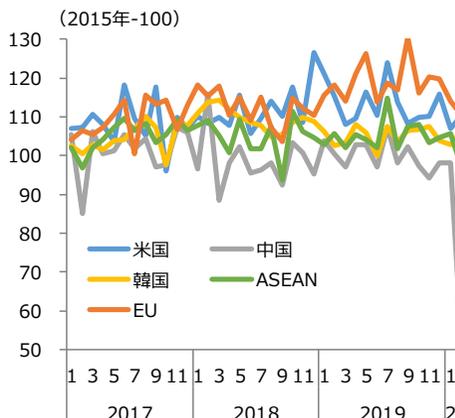


3 実質輸出：品目別



注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 実質輸入：国別



評価ポイント

今回の結果

- 20年2月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比+3.2%、実質輸入は、同▲10.8%（図1）。貿易収支（季節調整値）は、+4,983億円と、輸入が大幅に減少したため、黒字に転じた。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、EU向け以外が増加。中国向けは、前月比+9.6%と大幅に増加した。新型コロナウイルスの影響により中国国内の消費は抑制されているが、春節後の経済活動再開を見込んで輸出が増加した可能性がある。米国向けは、同+3.6%と2カ月連続の増加。米国向け輸出で高いシェアを占める輸送用機器に加え、はん用・生産用・業務用機器が全体を押し上げた（図2）。
- 品目別では、前月大きく減少した化学製品が、前月比+9.1%と大きく増加。電気機器（同+7.8%）も大きく増加した（図3）。
- 実質輸入（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、中国からの輸入が前月比▲43.9%と大きく減少（図4）。新型コロナウイルスの感染拡大による、中国の生産停滞の影響が顕在化したとみられる。

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、2月は一時的に増加したものの、均してみれば、海外経済の成長減速などを背景に18年後半以降は緩やかな減少傾向にある。
- 3月以降は、さらなる減少を予想する。新型コロナウイルス感染拡大による国内外の経済活動抑制により、世界経済の減速は避けられない。海外経済の減速により、今後は中国向けだけではなく、欧米向けの輸出の減少が見込まれる。また、サプライチェーンの寸断の影響が、今後の輸出・生産の下押し圧力となるだろう。
- ただし、新型コロナウイルスの感染拡大にともなう国内外での経済活動の自粛が終了し正常化すれば、輸出は緩やかながら回復すると見込む。
- さらなる下振れリスク要因は、新型コロナウイルスの感染地域の拡大と、国内外での経済活動抑制の長期化だ。これらリスクが顕在化すれば、海外経済の減速、サプライチェーン寸断が長期化し、輸出は停滞するだろう。